

民児協おやかやま

岡山市



第45号

平成30年11月1日



左上 石井十次 下 岡山孤児院・千二百人体制 右上 東区大宮にある大師堂（岡山孤児院発祥の地）

濟世

石井十次は慶応元年、宮崎県高鍋町馬場原に生まれ、明治15年、宮崎病院院長、荻原百々平の勤めで岡山県甲種医学校（現 岡山大学医学部）に入学。明治20年、邑久郡大宮村上阿知診療所

で実習中、四国巡礼帰途の母親から男児を1人預かったのをきっかけに、孤児救済事業を始める。その後岡山に帰り、門田屋敷の三友禅寺の一面を借り、「孤児教育会」（後に「岡山孤児院」と改称）の看板を掲げた。明治時代には社会福祉制度がなかったため、資金は個人の善意や寄付に頼るしかなかった。そこで「孤児教育会趣意書」を作成し、キリスト教関係者に協力を仰ぎ、孤児教育会を会員組織としてキリスト教徒や医学校の同窓生を中心に会員を募り、県内外の人に理解を求めた。

医学への思いも断ち切れずにいた十次は、明治22年、「人は二主に仕ゆること能わず」との聖句に従い、医書を焼き医学校を退学。この時、児童福祉・教育に専心する覚悟を決める。明治39年、東北地方一帯の冷害による大凶作により、多くの農家が破産、離散状態となった。この被災地救済に着手し6回に分け計825名を岡山に送り保護した。その年の院児数は1,200名に達し、全国にその名が広まった。

支援者などから寄付を募って、子どもたちとともに働き、生涯で3,000人近い子どもたちを救った十次は「児童福祉の父」と称されている。

西暦	年号	石井十次年譜
1865	慶応元	宮崎県高鍋町馬場原に生まれる
1887	明治20	「孤児教育会」（後に岡山孤児院と改称）を三友禅寺におく
1889	明治22	6年間学んだ医書を焼き孤児教育への専心を決意
1891	明治24	濃尾大震災起こる 震災孤児救済に着手
1898	明治31	音楽幻燈隊を編成して寄付募集を始める
1905	明治38	「岡山孤児院新報」に孤児無制限収容を発表
1908	明治41	「岡山孤児院新報」に「岡山孤児院十二則」を発表
1909	明治42	大阪市南区に保育所と夜学校を開設
1914	大正3	50歳で永眠

【出典：社会福祉法人石井記念友愛社ホームページ】

子どもたちの未来の希望を叶えよう

支援につなぐ子どもたちの未来のために

【岡山市子ども福祉課】 問い合わせ先 〇八六―八〇三―一三三三

見えにくい子どもの貧困

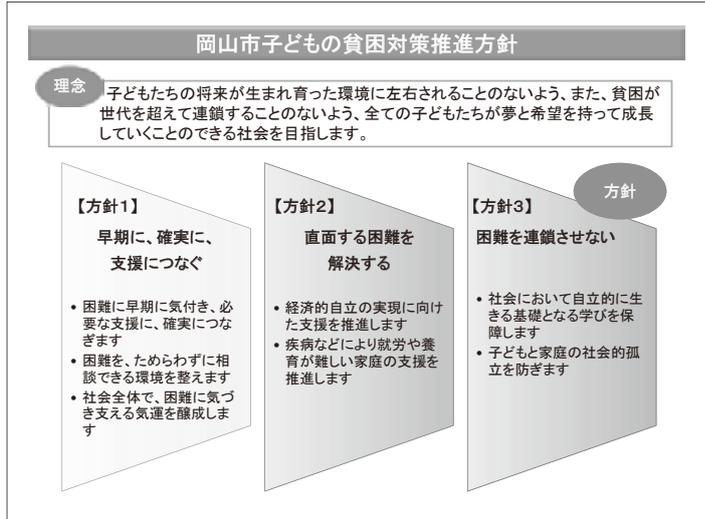
日本の子どもの相対的貧困率は一三・九％、十七歳以下の子どものおよそ七人に一人が貧困世帯で生活していると言われています。経済的に困窮している家庭の子ども達は、衣食住や学習機会や体験活動など

様々な面での「不足」状態になり、自己肯定感を高められず、進路の選択肢も狭まっている状況にあります。

しかし、必要最低限の生活水準が満たされていない絶対的貧困と違い、相対的貧困状態にある子ども達も存在は見えにくく、既存の支援制度も届きにくい状況にあります。

早期に確実に支援につなぐ

岡山市ではこうした状況の解決を図るため、昨年「子どもの貧困対策推進方針」を策定し、①早期に、確実に、支援につなぐ、②直面する困難を解決する、そして③困難を連鎖させないという三つの方針に基づく取組を進めています。とりわけ困難を抱える子どもや家庭に気付き、支援に繋げる「アンテナ」が増えることが出発点として大切です。



ひろがる子どもの居場所づくり

子どもの困難な状況を何とかしたいと、全国で子ども食堂や学習支援など、子どもの居場所づくりが広がっています。市内でもここ二年位の間の一〇か所以上の子ども食堂が開設され、子どもが抱える困難の気づきの場所としても期待されます。こうした動きを支援するため、市社会福祉協議会と協働して、「子どもの居場所づくり相談窓口」を市社協六事務所に開設しました。居場所づくりの相談や、実践者の皆様の交流機会をつくるなど支援を始めました。子どもの居場所でボランティアをしたいとか食材を提供したいというご相談も寄せられているところです。

支援制度一覧を発行

困難を抱えている子どもや家庭に気付いても、どこに繋いでよいのか、どのような支援制度があるのかわからないという声にお応えし、様々な支援制度を一覧



にまとめた「子どもの未来応援の道しるべ」を発行しました。ぜひご活用ください。

三百六十五日二十四時間の相談窓口

七月に岡山市で初めての児童家庭支援センター「どんぐり」がスタートしました。児童養護施設若松園に開設した「どんぐり」では、社会福祉士や臨床心理士などの専門家により、休日・夜間の相談にも応じています。こども総合相談所、地域こども相談センターとの連携を図りながら誰もが



(児童養護施設若松園内設置)

電話 086-237-7373

がためらわずに相談できる環境づくりを進めていきます。

子どもたちの未来のために

子どもたちが生まれ育った環境に左右されることなく、また貧困が世代を超えて連鎖することのないよう「貧困」に気づき、子どもと家庭が社会から孤立することがないよう、子どもたちの未来のために、支援につなげていきましょう。

岡山市地域協働学校とは

岡山市地域協働学校は、地域や保護者の方が、一定の権限を持つて学校運営に参画する合議制の機関です。

中学校区を一つの地域とみなし、家庭・学校・地域社会がそれぞれの役割を果たしながら、元気な学校、元気な子どもを地域で持続的に育んでいくという理念に基づいて運営しています。具体的には、運営協議会を開き、任命された委員が学校運営方針や運営状況等の情報について承認・協議を行っています。委員は、岡山市教育委員会が任命し、公務員としての身分を有して職務を遂行します。地域によっては、この委員に民生委員・児童委員が任命されており、運営協議会に参加いただいています。

文部科学省では、すべての公立学校が地域と一体になって子どもたちを育む、「地域とともにある学校づくり」へと転換していくことを目指して、コミュニティ・スクール(以

下CS)(学校運営協議会制度)の取組を推進していますが、岡山市では、CSのことを岡山市地域協働学校と呼んでいます。

これまでの経緯

平成十四年度から三年間、岡山市立岡輝中学校区の学校園が文部科学省指定を受け、「新しいタイプの学校運営に関する実践研究」に取り組みました。平成十七年には、岡輝中学校区の四校園が岡山市第一号となる「岡山市地域協働学校」として指定され、その後、「岡山市地域協働学校推進事業」において設置校を拡大してきました。平成三十年五月一日現在、岡山市地域協働学校は、岡山市立の幼稚園、認定こども園、小学校、中学校、高等学校において一七七校園に設置されています。(設置率は約九〇%)なお全国では、平成三十年四月一日現在、五、四三二校が設置されています。

岡山市地域協働学校の特徴

岡山市地域協働学校の特徴を二つ

紹介します。

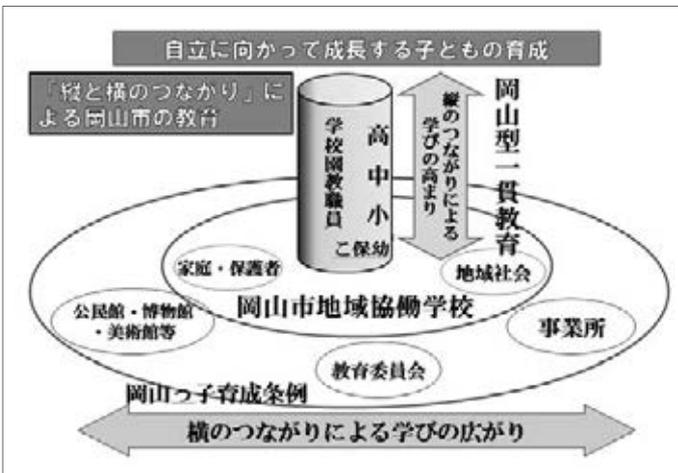
まずは、中学校区を単位として設置していることです。中学校区で地域協働学校を設置する意義として、中学校区の学校園が、共通の課題や目標をもった運命共同体であるという意識をもつことができます。〇歳から十五歳までの「学びの連続性」の効果が期待でき、岡山市が進めている「自立に向かって成長する子ども育成」の推進にも効果的であると考えられています。

次に、中学校区で「連絡会」を開催していることです。「連絡会」とは、中学校区のそれぞれの運営協議会で協議された内容を持ち寄り、報告・情報交換を行います。このことによって、中学校区の現在の状況や課題を明確化し、それぞれの運営協議会に活かせる仕組みとなっています。

期待される効果と課題

岡山市地域協働学校では、保護者や地域の方が学校運営に参画することで、学校との信頼関係が再構築・深化することや、家庭・学校・地域社会のそれぞれの役割

や責任を明確にし、家庭や地域社会における教育力の向上が期待されています。また、中学校区の学校園が一体となった取組をすることで、それぞれの校園同士が緊密に連携し、段差のない教育が施されると考えています。しかし、岡山市地域協働学校の周知や組織づくり、協議内容において、課題もあります。岡山市教育委員会は今後、家庭・学校・地域社会の協働体制のさらなる構築、深化が図られるよう支援していきます。



※「こ保幼」は、認定こども園、保育園、幼稚園

●「災害時一人も見逃さない運動」推進補助金について

この運動は、全民児連において、平成十九年の民生委員制度創設九十周年に際しての記念事業として提唱され、その後、全国各地の民児協で推進されているものです。具体的には、民生委員・児童委員が日常的に

行っている見守り活動を通じ、高齢者のみの世帯、障がい者の世帯、子育て中の世帯など、災害発生時に要支援状態となりうる世帯の安否確認や、避難誘導を円滑に行うために、名簿の整備や災害福祉マップの作成、地域の関係者との協力による避難訓練などに取組むものです。

本市民児協においても、この運動の一層の推進を図るため、平成二十四年度に標記補助金を設け、災害時要援護者支援活動の促進・充実を図っており、毎年複数の地区がこの補助金を活用し、避難支援マップ作成などに取組んでいます。

【補助金の概要】

1 金額	1地区年額10万円まで	
2 期間	2年まで	
3 指定箇所	市民児協全体で5箇所まで	各福祉区のバランスを考慮し、年度ごとに募集数を調整しています。
4 補助対象事業	地区民児協が、「災害時一人も見逃さない運動」に基づいて実施する、災害時要援護者支援に関する各種事業 〈例〉 ・研修活動 ・災害時避難支援マップ作成 ・広報活動 ・避難支援に係る用品等の購入 ・避難訓練活動 など	※新規事業か、以前からの継続事業かは問いません。 ※地区民児協単独で行う事業も補助対象となります。 ※他の補助金と重複しても、補助対象となります。
5 年間スケジュール	①各地区からの応募（4月末期限） ②福祉区内での調整（5月下旬期限） ③審査委員会にて助言（6月下旬） ④決定 審査委員会を受けて会長が決定（7月中旬） ⑤交付 指定の口座に振り込み ⑥事業実施 ⑦報告（翌年4月中）	※申請に使用する様式は所定のものがあります。 ※審査委員会は、各福祉区からの推薦を受けた委員によって構成されています。

概要は表のとおりです。まだ活用されていない地区におかれましては、積極的にご応募ください。

●民生委員制度紹介DVD「支え合う 住みよい社会 地域から」

民生委員制度創設百周年記念岡山市単独事業として作成しました標記DVDが今年六月に完成し、各地区にお配りしています。皆さま、ご覧いただけましたでしょうか。撮影期間中には、地区の定例会や、主任児童委員部の部員研修などに取材に行かせていただき、たくさんの方々に協力いただきました。ありがとうございました。

このDVDは、連合町内会等の関係機関や地域の方々を対象として、民生委員の活動について分かりやすく紹介し、住民理解の推進による民生委員の活動しやすい環境づくりの醸成に利用するとともに、福祉の担い手を広げることよって民生委員の新たな「手」確保につながることを目的に作成されたものです。来年の一斉改選に向けて、今後、各連合町内会にも配付し、地域での民生委員・児童委員制度の広報に利用していただき、また、来年開催される各地区推薦準備会において準備会委員への説明の際にも活用していく予定です。



DVDケース、DVD本体のデザインに共通して使用してある長方形のオブジェ群は、人生経験豊かな委員の方々を本に例えています。本が繋がっている様は、知識の共有・制度の橋渡しをイメージしています。また、様々なサイズの本が互いに支えあっているのは、互いに支えあう地域の人々を表現しています。

北区北福祉区主任児童委員部の活動について

御津地区民生委員児童委員協議会

主任児童委員 藤井 賢一

北区北福祉区主任児童委員部では、依然深刻な状況にある子どもをめぐっての課題に対応できるように活動・研修会を行っています。活動を通じて親睦を深め、様々な情報や課題を共有し皆で取り組んでいきます。

今回は、御津地区の地域の特性を生かした研修会について紹介いたします。御津地区は中心に旭川が流れ丘陵や山林も多く、自然豊かで子育てもしやすい地区であります。歴史も古く数々の名所がある中で、テーマは、『備前の名医・難波抱節先生』のお話と岡山県立岡山御津高等学校の視察を加え、二部構成の研修会を行いました。

研修会六月十八日の天気は曇りの予報でしたが、皆様の日頃の行いが良いおかげで晴天となり、少し暑い

中でのスタートです。

このお話は、江戸後期のお話です。難波抱節先生は、現在の岡山市北区表町のあたりに生まれ、御津金川の医者である難波家に養子として迎えられました。先生も医者の仕事をしていましたが、一人でも多くの人を救いたいと思い、京都・和歌山の塾に入門し、内科・産科・手術の方法や麻酔薬について学び、多くの医学書も書きました。自ら御津金川に『思誠堂塾』を開き、多くの弟子たちに自分が学んだ事をおしみなく教えたそうです。先生が御津におられた事を残すために、御津文化協会の方々と御津公民館によって、本や紙芝居が作成されました。今回は、御津文化協会の寺島会長による紙芝居という形でお話を聞きました。拍子木での始まりには風情があり、流暢な語りにより、昭和の時代へ戻った感じでした。先生の想いは、私達の活動に通じる部分があると痛感しました。

二部の研修会は、岡山県立岡山御津高等学校の視察です。岡山御津高等学校は、平成二十六年度より『高等学校における個々の能力・才能を

伸ばす特別支援教育事業』の研究指定を文部科学省より受け、継続して研究もしております。最初に神田亮一校長先生より、研究についての説明を受けました。障害による学習上・生活上の困難を改善・克服する事を目的とし、指導内容もコミュニケーション・自己表現トレーニング・スジョン・自己表現トレーニング・スケジュール管理などのテーマで授業を行います。大学の先生や専門家の方々のアドバイスを受け、高校の先生方も日々ミーティングを行うなど手探り状態でのスタートだったそうです。生徒も始めは落ち着かない様子でしたが、月日が経つと生徒も慣れて徐々に研究の成果も出てきました。

私達も実際にテキストを頂き授業を受けました。『正しく理解しよう』というテーマで、文章を読んで質問に答えるという授業です。質問を見ても、推測で答えてしまうような質問もあり、危うく間違うところでした。自分の子どもには、『ちゃんと問題を読んでごらん』と言っています。自分が読んでいないですね。今日は、久しぶりに学生に帰った気分でした。年間を通じて様々なテ



マで授業がありますが、機会があればまた授業を受けてみたいです。色々な行事で岡山御津高校の生徒と関わりがありますが、これを機に高校との情報交換をしていきたいと思えます。

今、色々な形で支援を必要とする子どもが増えていると思います。地域全体で子育てをする時代にもなりました。子どもたちを取り巻く環境が変化する中で少しでも皆様の力になれるようにこれからも活動していきたいと思えます。

この度の、大雨の被害を受けられた皆様に心よりお見舞い申し上げます。一日も早い復旧と皆様のご健康を心よりお祈り申し上げます。

福祉区民児協の紹介

福祉区民児協の取り組み

北区北福祉区の取り組み

北区北福祉区民生委員児童委員協議会

会長 笠井 祥司

「ここ、まだ北区北福祉区？」そう、

六福祉区の中で最も広い面積を有するのが北区北福祉区です。高齢化率十九%から四十三%の地区、高齢者のみ世帯数七〇〇から二、四〇〇を超える地区、担当区域を歩いて回れる地区もあれば、隣の家までひと山越えていかなければならない地区まで、高齢化率、高齢者のみ世帯数、人口、土地柄等大きな違いのある八単位民児協によって構成されています。だから、抱える問題も多種多様です。

さて、北区北福祉区民児協の基本となる活動は、会長連絡会、執行部会、理事会、そして、主任児童委員部部会、地域福祉推進部部会です。

事業計画・予算等については、執行部会（各地区会長、主任児童委員部部长、地域福祉推進部部长、監事で構成）において計画立案し、理事会（執行部会メンバーに加えて、各

地区副会長、主任児童委員部副部长、地域福祉推進部副部长で構成）で審議・承認を得て新しい年の活動が始まります。

会長連絡会は二か月に一度定期開催されます。各民児協間に共通する問題はもちろんのこと、地域間で大きく異なる問題も多々あり、それらを違った目や立場から意見交換することによって、単位民児協の問題としてだけでなく北福祉区民児協共通の問題として捉えることができます。また、岡山市社協北事務所へは事務委託のみならず、会長連絡会に参加してもらい協働で事業を進めています。

主任児童委員部、地域福祉推進部の研修会等については、各地区民児協会長も参加します。部会任せの活動ではなく、会長会として研修の機会を得るだけでなく、部会の抱える問題・課題を共有することもできます。両部会とも担当地区が進めていき

ますが、特に地域福祉推進部の研修・交流については、担当地区民児協は民生委員・児童委員全員が参加し共に進めていきます。

では、二十九年度の各部会の研修活動を振り返ってみたいと思います。主任児童委員部は、年度初めの北地域こども相談センター、北保健センターをはじめとした関係機関との話し合い、足守の「ももどの学園」での研修、津島児童学院夏祭りボランティア活動、南区西福祉区と合同で大阪・大念仏寺社会事業団での研修、御津・建部支部のオレンジリボン活動、一宮の適応指導教室トラングルでの研修等を実施しました。

大阪での合同研修では、南区西福祉区の皆さんとの親睦を一層深めることができました。

地域福祉推進部は、御津の特別養護老人ホーム「宇甘川荘」での研修、建部の介護老人保健施設「葵の園」での研修、そして、高松城址・高松最上稲荷神社等の歴史について学びました。

また、岡山市民児協理事会研修での松藤和生氏の講演は、民生委員・児童委員活動を進めていく上でとて

も示唆に富んだ内容であり、北福祉区民児協二〇五名全員での全体学習会を実施しました。

北区北福祉区民児協の誕生から五年、その間、諸々の活動を通じて点から線へ、線から面へと年ごとに充実した活動になっていることを実感しています。

地理的には遠く離れていても心はひとつ、強い絆で結ばれている、それが北区北福祉区民児協です。これからも誰もが安心して住み続けることのできる地域づくりを目指して活動していきたいと考えています。



南区南福福祉区の取り組み

南区南福福祉区民生委員児童委員協議会

会長 森上 綾子

昨年度は民生委員制度創設百周年という節目を迎え、盛大に記念式典が開催されました。改めて福祉の重

さと責任を自覚し、先達が守り続けてきた「民生委員・児童委員信条」を胸に、より一層社会奉仕の精神を持って活動を続けて参りたいと考えています。「誰もが笑顔で、安全に、安心して暮らせる社会づくり」の実現に向けて取り組むとともに、次なる百年に向けて制度を守り、さらに活動を発展させていくための取り組みを進めることが求められています。

わが国は、少子高齢化の進行するなか、地域社会の変化、人間関係の希薄化、多種多様なニーズの増加等で多くの課題が顕在化し、深刻化しています。民生委員・児童委員自らが積極的に地域に働きかけ、住民と向き合い、地域団体との関係や連携

を大切にし、地域福祉の担い手の一人として受け止め、「我がこと・丸ごと」を心がけ、地域共生社会の実現に向け努力しなければならぬと思います。

南区南福福祉区民生委員児童委員協議会は、平成二十六年より南区福祉事務所管内の一〇小学校区の地区民生委員児童委員協議会（委員総数一五三名）で構成しています。南区南福福祉区民児協のスローガンとして「目に見える民生委員を目指そう！」と一致団結をしたところです。平成三十年度の事業計画としては、会長連絡会は「各地区民児協の情報の共有化・活動状況の調査」、地域福祉推進部は「貧困問題」、主任児童委員部は「子どもの現状を把握し継続的な自立の支援」をそれぞれのテーマとし、三部会で年間行事計画を立てています。三部会の行事内容を共有化することで、会全体の把握と連携に繋がり、本協議会活動の充実を図っています。



そのほか、全体研修と視察研修は年一回開催し、オレンジリボンキャンペーンとしては各地区で児童虐待防止の啓発に向けて取り組む活動を予定しています。昨年の全体研修では、岡山市における子どもを取り巻く現状についての南区南福福祉事務所地域こども相談センターの講演と、主任児童委員部の提案により「さよならええやん！」の上映を行いました。この映画は、日雇い労働者の街・釜ヶ崎で三十八年続く子どもが集い場「子どもの里」を舞台とし

て、人情が色濃く残る街の人々の奮闘を描く、涙と笑い溢れるドキュメンタリーで、とても感動しました。また、視察研修では、倉吉市役所にて、平成二十八年十月二十一日の鳥取県中部地震をテーマにした意見交換・交流会を行いました。

これからの民生委員・児童委員活動を通じて、町内会、行政・専門機関との連携により、地域で生活するすべての人が笑顔でいられるよう、自然災害や犯罪・事故などからの「安全」を確保するとともに、困ったことがあれば、いつでも必要な支援が受けられる「安心」を感じられる社会の実現を目指して、活動を推進し取り組んで行きたいと思えます。「身近な相談相手」としての民生委員・児童委員を目指して、南区南福福祉区民児協全体で活動して参りたいと考えております。



わたしの趣味



マジックショー

藤田地区民児協

三宅 力雄

民生委員に就任した十四年ほど前から、保育園、幼稚園、小学校、老人ホーム等で行っています。写真左側は、ビックリ箱からネコの親子を取り出している様子、写真右側は、市主催の敬老会での様子です。マジックのネタ数は、五百種類くらいあります。

折り紙



旭東地区民児協

多田 松子



折って、飾って、使って、プレゼントに。手先を動かして、脳トレにもなり、八ヶ九人のグループで月一回、楽しい時間を過ごしています。作品をサロンや保育園にもプレゼントしています。

◆委員より◆ 「わたしの趣味」を募集します。写真・絵・工芸・俳句・川柳など自薦他薦は問いません。

事務局までご連絡ください。

事務局（福祉援護課内） ☎086-803-1218

編集後記

「晴れの国・岡山」のキャッチフレーズ通り、災害の少ない温暖で自然豊かな県と言われてきた岡山。

ところが、七月の西日本豪雨により県全域にわたり甚大な被害がありました。刻々と写し出される映像や、避難情報に驚きと強い不安を覚え、最大浸水の場所では、五・三メートルもあり屋根の上での救助待ちの状態でした。

この度の災害により被害にあわれた方々に心よりお見舞い申し上げます。と同時に、一日も早い再建をお祈りいたします。

自然災害に対する防災意識や避難のあり方等、地域での密な連携の必要性を改めて強く感じました。

その中でも、中学生・高校生の若い人たちが猛暑の中でポランテアに汗を流している姿は、これからの未来に一すじの光を見る想いでした。

人々の温かさを次の世代に繋いで行くよう、今の私達にできることを、智慧を出し合い、精一杯の行動で示したいものです。

この大変な中で、原稿をお寄せくださった皆様、本当にありがとうございます。

本田 茂子 記